

平成30年度 第4回（震災後90回）

テーマ：「はまかだを活かしたおらほの地域づくり」

日時：平成31年2月15日(金) 13:30～15:40

場所：陸前高田市コミュニティホール 大会議室

参加：63名28団体

資料：別紙参照

- 1 開 会
- 2 内 容

(1) 「未来図会議／本日のテーマについて」

陸前高田市 民生部保健課保健係 保健師 佐藤 沙希

生活支援コーディネーター 金野 康子

未来図会議は「健康や幸せを感じられるまちづくりの実現に向けて議論する場」である。様々な分野でより良いまちづくりのために「はまかだ」を進めていくことが誰もが幸せを感じられる、ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりにも繋がる。分野を超えて互いを認め合ってアドバイスやヒントを共有し、健康や幸せを感じられるまちづくりの実現に向けて「はまかだ」ができる場にしていきたい。

「地域支え合い活動推進事業」とは、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも住み続けることができるように、地域で何気なく行われている、住民主体の活動や支え合いを大切にしながら、社会参加による介護予防を推進していく事業。少子高齢化が進み、介護保険で提供するサービスの供給が限界に達しようとしていることから始まった。平成31年1月末現在の高齢化率は市全体で38.9%、平成30年2月末では、38.2%となっている。確実に高齢化が進んでいるが、介護専門職の人材不足が深刻となっていることが背景にある。改めて、住民同士の支え合い、助け合いが必要とされている。地域との繋がりを大切にし、これからも住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりをしていくことが必要となっている。

地域づくりのお手伝いとして、「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」が配置され、「協議体」が創設された。「協議体」とは、地域内での困ったことや高齢者についての課題を地域内でできることは取り組み、出来ないことは関係各所に声を届けるために協議する（お互いの知恵を出す）場である。「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」とは、地域の状況や困りごとを把握し、もともとある活動を活かしながら、支え合う力を組み合わせ、繋がりや交流の場を広げていくこと、新たな支え合い活動を創出する支援する仕事である。

今年度は、地域支え合い推進員を各コミュニティ推進協議会単位で委嘱し、10地区で委嘱済み。

第1層（市内全域）、生活支援コーディネーター2名がいる。第2層（コミュニティ推進協議会単位）、地域支え合い推進員がいるという仕組み。第2層で課題を解決し、解決できない時は、第1層の協議体に挙げて関係各所と解決に繋がるような支援を行っていく。

未来図会議で「地域支え合い推進員」を知っていただき、活動について紹介し、ご協力をいただきたい。

(2) 「地域支え合い活動推進事業～各地区の様子について聞いてみよう」

地域支え合い活動推進員 下矢作地区 菅野 わか 氏

広田地区 菅野 タエ子 氏

<下矢作地区>

事業の目指すところは何か、私の役割は何かを考えた。県の研修に行った時に介護保険では補えない、生活支援の創出や支え合いの仕組みを作るという話を聞き、やる事が見えてきた。難しいが、皆さんと協力しながら進めていこうと思った。

住民に問題意識を持ち、行動することや高齢社会の現状、介護保険サービスでは補えないことを伝えることが大事と考えた。地域の中心となっているコミュニティ推進協議会の理解を得る為、コミュニティ推進協議会の幹部の皆さんや構成員の皆さんに説明を行った。30人程集った。そして、協議体の設置の目途ができた。今後は協議だけではなく、次のステップに進めていくことが課題である。

<広田地区>

事業について、これまでやってきたことと事業との結びつきが取れなかった。ボランティアの方がこれまで善意でやっていたことが義務化してしまうのではないかという不安があった。

「広田町をより良くする教室」では、福祉から学童の勉強や意見交換を行い、不安、問題点、聞きたい、知りたいことが分かってきた。問題点について何ができるか、発言をしてもらっている。自分の言葉に責任を持っていただいて、町への思いをずっと意識して、考えていただくことを大切にしている。「高齢者教室」の参加者や民生委員、コミセンの役員、お茶のみの方々から協力をいただいている。

(3) 参加者の皆さまと“はまってけらいん、かだってけらいん”

テーマ：「地域で支え合うために ～いま、何が必要か？～」

- ・ お互いを知る。
- ・ SOSを出してもらおう。SOSを出す勇氣。
- ・ 顔見知りになる。
- ・ お茶っこする。(おとこのお茶っこクラブ。おとこの台所。)
- ・ おせっかい。
- ・ 声かけ。声かけしやすい雰囲気。
- ・ 近場のサロン。
- ・ 相手を誘う。
- ・ 気にする習慣。
- ・ 若い人へのサポート。
- ・ 時間、お金などの余裕。
- ・ 地域での体制作り。
- ・ 役割を持って生活する。
- ・ 地域を知る。
- ・ 交通手段がない人のために出前訪問する。
- ・ 集りに新しい人が入りやすい環境。
- ・ 社会参加をする。
- ・ 世話役。
- ・ マイナスなことを言わない。
- ・ 自主防災。
- ・ 言いつばなしにしない。

(4) 本日のまとめ

はまかだ運動推進アドバイザー 佐々木 亮平 氏

社会参加に参加する、「はまかだ」が大事ということが出てきた。それを含めて介護予防をしていく為の事業で、ひとつの手段であることを共有させていただきたい。「協議体」、「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の活動を覚えていただきたい。期待、知りたいことを力にしていきたい。誰かにやらせる、動かすとなると、つながらなくなる。出来るという視点でやれたらいい。一人でやることは難しいので、「はまかだ」しながら、地域文化に合わせて具体化していく。昔から陸前高田には「はまかだ」があった、素晴らしいこと。今日の出会いを大事にしていきたい。

☆旭 正臣 氏

松戸でも予防活動を行っている。専門職だけではできないので、ボランティアと行い、育成も行っている。

愛知県では「認知症予防にはボランティアをすると良い」と言ったところ、ボランティアが増え、認知症が減った事例がある。

東京立川市では「孤独死ゼロ」の取り組みとして、リーダーを中心に活動し、地域の方々に声掛けをし、見守りを行っている。

末崎では「巡回型のこころのケア」として仮設住宅に保健師が訪問したところ、認知症の方の意欲が戻った。特技を活かした活動を行うことが良い。

☆及川 忠人 氏

自主防災について、震災の時、陸前高田に来る際、道の誘導を無線でしてくれた。スマホ使えない場合どうしたらいいか、勉強した方が良い。

健康寿命を延ばしていくことが最も重要。「はまかだ」が大きな力になると思う。

★次回（第90回）：平成31年4月25日（木）14：00～16：30

会 場：陸前高田市コミュニティホール 大会議室

テーマ：「本人も家族も地域も“良かった”と思える人生にするために（仮）」